

## 内外金融に安定期は遠い

―「崖っぷち意識のない崖っぷち状況」をどう見るか

東洋経済新報社金融担当記者

浪 なみ

川 かわ

攻 おさむ

- \* 金融政策が最重要という不思議
- \* 行きすぎが起る為替の動き
- \* 費用先行になっている売り方
- \* 「基準外貸付制度」に学ぶ
- \* 規模の小さい金融機関ほど大変
- \* 2013年に金融再編は必至
- \* 封じ込め策に乏しい国債暴落
- \* グループ銀行に公的資金注入？
- \* 心配なアジアでの日本企業金融
- \* 被災地に仕事をつくるために



浅野 それでは開会いたします。（拍手）い

よいよ今年も押し詰まってきましたけれども、後ろから2回目の講演というのなかなか大事なので、どなたにお願いしようかなと思案して、浪川さんになりました。東洋経済で金融担当として長く記事を書いておられますけれども、このところ経済倶楽部では、金融の話ではなくて、福島の被災地取材して歩かれた話が続きました。こういう話をしてくださるジャーナリストはあまりいません。東洋経済でも浪川さんを置いてほかにいないわけです。

迷いましたけれども、今年はそろそろ本業の金融の話もぜひ聞いてみたいと思ひまして、無理を言って金融の話をしていただくことにいたしました。お話ししたかったら、5分か10分、被

災地の話もしていただいて結構ですけれども、今日は魅力的なレジュメなので楽しみに聞かせていただきます。ではよろしくお願いいたします。（拍手）

浪川 浪川でございます。いつもどおりのつまらない話をしますが、お付き合いのほどよろしくお願いします。

今、浅野理事長がおっしゃったように、実はいまだに僕は日銀よりも福島に行っているほうが多い状況でして、だんだん金融に自信がなくなってきたところなんです。ここではかなりお話を機会をちょうだいしたと思うのですけれど、今日はいちばん自信がないのが本音です。朝早く起きて準備をし直していたのですけれども、残念ながら時間切れ、ノックアウト状態に